

フェンダーの形状による繋船作業の実態について



フェンダー上部の突起物が錆びてめくれており、吊りフックとともに引っ掛かる可能性があります。
真ん中の位置で取っても、巻いているうちにずれてしまいます。



ロープが完全にフェンダーの下に入り込んでいるので、本船がもう少し前進してフェンダーをかわすまで様子を見ながら巻いてもらうか、無理なら一旦取り直すことにもなります。



ロープを巻いたときに、フェンダーをかわすか、目が離せない。本船の最終停止位置でロープがどの向きになるか考えてとらなければならない。

ロープの方向がどちらになるか、
巻いたときにどちらにずれるか
を考えて取る必要がある。



本船のムアリングホールが低い
場合があるので、車止めに
当たって破損することもある
ので、巻く際にロープを少し持
ち上げる必要がある。

フェンダーが劣化して割れていたが、巻いた際に隙間に食い込み、挟まってしまった。手持ちのロープをひっかけて、手前にジープで引っ張り外した。割れ目は少しですが、ロープを巻く力で入り込んだ。



このように、岸壁表示灯の電源BOXが大きい場合、上部にカバーはありますが、ロープがどの向きに引っ掛かるかわからないので、前もって海側にかわしておく必要がある。
他の箇所はほぼ車止めと同じ高さのものなので、できるだけ統一できれば良いと思います。

